

以前、3月頃だったと思うが、我が家の長男が「ウイルスって細胞を持っていないんだよ。それなのにすごいよね」と言っていた。彼は理系の学生である。文系の私は、そのすごさが理解できずに、適当に話を合わせるしかなかった。

一応、今までの学校教育の中で知識としては学んできている。だが、そんなものは大して役には立たない。これからもウイルスとのお付き合いが続くと思われるので、この機会に改めて勉強しておきたい。

WHO（世界保健機関）のテドロス・アダノム事務局長が、ついに「パンデミックと言える」と述べたのは、奇しくも3月11日であった。パンデミックとは、日本語にすれば「感染爆発」となるだろうか。エピデミックは局地的な感染症の広がり、パンデミックは世界的な大流行を意味する。

過去にはウイルスが突然変異をしたことで世界が大きく変わったり、そもそも歴史が変わったりしたこともある。今回の場合、コロナウイルスというごくごくありふれたウイルスが突然変異をしたものと言われている。

そもそもコロナウイルスとは何なのか。名前の由来はウイルスの本体が球形で、表面にいくつもの突起があり、まるで王冠のように見えることからコロナウイルスと名づけられた。コロナとはラテン語で「王冠」、ウイルスはラテン語で「毒液」を意味する。

特に冬場、いわゆる普通の風邪が流行しているときの35%くらいの人がこのコロナウイルスによる風邪だと言われている。ちなみにインフルエンザとは別物である。インフルエンザはインフルエンザウイルスによって発症する。インフルエンザで大騒ぎしなくなったのは、ワクチンや治療薬ができたからである。

従来のコロナウイルス自体はそれほど恐れるものではない。しかし、厄介なのが、突然変異をすることである。それが今回の新型コロナウイルスである。ウイルスは細胞を持っていない。遺伝子がタンパク質で包まれているだけの構造である。従来の生き物の定義では、生き物とは細胞を持っているものを言う。細菌には細胞がある。だから細菌は生き物である。こうした細胞があるものに関しては抗生物質が効く。抗生物質が細菌をやっつけてくれる。

しかし、ウイルスは細胞を持っていないので抗生物質が全く効かない。だから、そもそもウイルスは生き物かそうでないかという議論がある。いわば生物と無生物の間みたいなもので、人間やほかの哺乳類の細胞の中に入り込み、その細胞が持っているDNAやRNAの増殖機構を乗っ取って自分（ウイルス）を増殖させる。つまり、どんどん自分のコピーをつくるわけだが、その過程でコピーミスが起きる。これが突然変異である。

ウイルスは、コピーミスがあっても、ヒトの細胞のように修復されたり、細胞死したりすることもなく、そのまま違った遺伝情報を伝えるウイルスが誕生する。この突然変異の中で、ときどき非常に強いウイルスが生まれてしまう。こうした過程で生まれたものに、SARSやMERSがある。

今回の新型コロナウイルスによる感染症は、「COVID-19」（コロナウイルスによる感染症の2019年版）と名づけられた。

ようやく息子の言っていた意味が少しはわかったような気がする。かといって、ウイルスを防げるわけでもなく、かえって得体の知れない恐ろしい物のようにも感じる。我々人類は、どうやらウイルスから逃れることはできないようである。そうであるならば、いかに付き合っていくかを考えていかなければならない。